# 自宅担保リフォーム、70歳以上はローン金利ゼロ　国交省

経済 ＋フォローする
2025年1月27日 5:00 [会員限定記事]

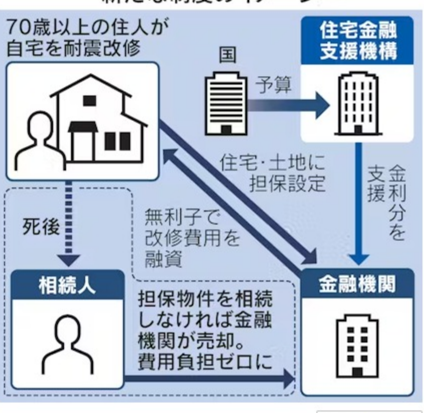
保存

国土交通省は高齢世帯が住む家屋の耐震改修を後押しするための新制度を設ける。自宅を担保にして資金を借りる「リバースモーゲージ」と呼ぶローンに関し、70歳以上であれば毎月の返済負担をゼロにする。早ければ2024年度末に金融機関が商品を提供できるようにする。

リバースモーゲージは自宅を担保に改修や新築などの資金を借り、月々の支払いは金利分だけに抑えられる仕組みとなっている。住人が亡くなって、相続人が相続しなければ、貸し出した金融機関が売却するなどして元本を回収する。

新たな制度は耐震改修を対象に、利用者が70歳以上であれば、金利分の支払いもしなくて済むようにする。60歳以上70歳未満では金利負担を3分の1に抑える。柱や梁（はり）の補強、屋根の軽量化といった改修が想定される。

新たな制度のイメージ




図表を保存

国が住宅金融支援機構に出資し、機構が運用して財源を捻出する。制度に参画する金融機関への利子分の支援にあてる。対象となるローンの金利には上限を設ける。24年度の補正予算で21.6億円を確保している。

機構によると、リバースモーゲージは改修や新築などで24年9月末までに累計8700戸程度からの申請があった。直近では年金受給者の利用が多いという。

住宅の耐震化を巡って政府は、震度6強から7の地震が起きても倒壊しない耐震化率を国内で30年にも100%に引き上げる目標を打ち出している。最新データの18年時点では87%となっている。24年1月の能登半島地震では耐震基準を満たさない住宅が多く倒壊した。

高齢世帯では経済的な理由や相続人がいないことなどから、耐震改修を避ける傾向が強いと国交省はみている。自己負担がない新制度を通じて、改修の加速を狙う。

国の耐震改修の支援では地方自治体と折半して設計・工事費用の8割までを、一般住宅では100万円を上限に補助する仕組みもある。物価高を受けて上限を115万円に引き上げる。豪雪地帯では上限120万円を140万円に、住宅密集地では150万円を175万円に上げる。準備を終えた自治体から実施できるようにしている。

【関連記事】
- リバースモーゲージ、デメリットとリスクを確認
- 住宅活用し老後資金　マンション高騰のタイミング生かす
- リバースモーゲージで住宅ローン借り換え、老後リスクに

取材の裏側･解説 NIKKEI Briefing ニュースレター登録はこちら 会員限定

経済･社会保障 最新情報はこちら

初割ですべての記事が読み放題
有料会員が2カ月無料
初割で無料体験する

有料会員限定
キーワード登録であなたの
重要なニュースをハイライト
日経電子版 紙面ビューアー
詳しく見る ›

保存

## 関連トピック
トピックをフォローすると、新着情報のチェックやまとめ読みがしやすくなります。

＋ 建設・不動産　＋ 税・予算　＋ 地域金融　＋ 相続

## こちらもおすすめ(自動検索)
- 増える「老老相続」　相続人の半数が還暦以上に 2024年10月23日
- 生死分ける住宅耐震　築100年古民家、能登地震で倒れず 2024年8月31日
- 住宅ローン「フラット35」とは　子育て・省エネで金利低く 12月6日
- 住宅ローン減税延長や免税品の転売防止策　詳しく解説 12月20日

## 関連キーワード